

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と 犬蔵中学校における今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度4月19日（火）に3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の各学校の調査結果が配付されました。調査結果をもとに、本校の学校目標、

「生命・いのちを尊重し 生きる力を育む」

1. 社会の一員として自覚を持ち、正義を重んじ、命の大切さを実感できる人
2. 一人ひとりの人権を尊重し、誠実に信頼できる人
3. 勤労を尊び、自ら学ぶことのできる人
4. 身体を鍛え、自分を大切にする人
5. 夢と希望を持ち、目標の実現に向かってたゆまぬ努力をする人

を踏まえ、学校づくりに生かす視点から分析を行いましたので、今後の取組について報告いたします。

なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることが調査の実施要領にも示されております。したがって、本資料につきましても、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標と考えていただきたいと思います。

今後も生徒一人ひとりに寄り添った教育活動の推進に努めてまいりたいと考えております。

1 これまでの課題に対する学校の取組

(1) 教科について

国語 本文中の内容のつながりを意識して読み取りを行うとともに、少人数グループでの言語活動を通して、相手の意見を捉えながら自身の意見へと反映させること、説明を通して文章の理解を深める実践をくり返してきました。

数学 学び合い活動を中心とした活動を行うことで、一人ひとりが本質的な理解へとつなげられるよう実践してきました。

(2) 生徒質問紙について

コロナの影響によりあらゆる活動が縮小されたが、学校の教育活動では、徐々に本来のあり方に戻りつつあります。キャリア在り方生き方教育の基本である、社会性や人間関係形成といった点に注力しながら、各授業をはじめ、行事等を新しい生活様式として計画し、安全に配慮しながら改めて主体性や社会性といった視点で生徒の育成を目指しました。

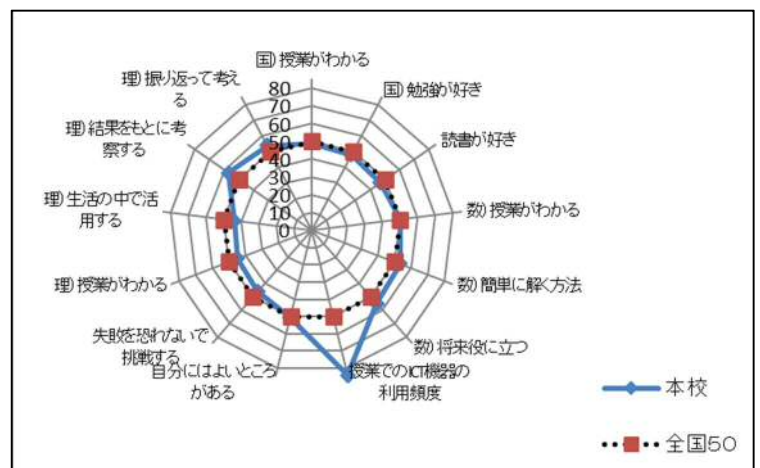
2 本校の調査結果の全体的な概要

○数学の「簡単に解く方法を考える」については、学び合いによる説明しようとする姿勢から成果が得られ、全国平均を上回ったと考えられます。

○理科の「観察や実験の結果をもとに考察する」点については、全国平均を大きく上回っています。日頃より実験データをもとに考察する授業展開が良い影響を与えています。

●理科の「普段の生活の中で活用できるか」という点については全国平均を下回っており、身近な事項と結びつけて学習を進める工夫が必要であると考えられます。

●国語の「勉強が好き」「授業の内容がよくわかる」については、いずれも全国平均をやや下回っています。生徒のもつ「思考、判断、表現」の力を生かし、達成感を得られるような授業改善に努めます。



3 教科に関する調査結果の概要<本校平均正答（回答）率> 【勤労を尊び、自ら学ぶことのできる人】

☆→良い状況と考えられる内容

★→指導や改善が必要と考えられる内容

■国語

☆「思考力、判断力、表現力等」の領域は全国平均と比べて5.6ポイント上回っています。特に「話すこと・聞くこと」と「読むこと」においては大幅に上回っており、日頃から言語活動を意識的に取り入れ、より深い読み取りを目指した授業を展開している成果と考えられます。

★短答式、記述式の問題の多くに無回答が目立ち、全国平均と比べても無回答の割合が高い結果となりました。一方で、正答率との相関性は見られませんでした。書いたものを生徒同士で交流するなど、「書くこと」への抵抗感や疲労感を減らし、充実感を増やしていく工夫が必要です。

■数学

☆数と式の領域の問題では、多くが全国平均より10p以上、上回っています。

☆関数の領域「一次関数の変化の割合の意味を理解している」について、正答率が23.9pで、全国平均より上回っています。

★データの活用の領域では、すべての問題において無回答の割合が、全国平均より高くなっています。実際の事象に照らし合わせ、数学的に考えさせていく必要があります。

■理科

☆気象分野において、全国平均を上回っています。観測実習や天気図作成などの実習活動を多く取り入れたことが、良い結果につながっています。

☆生物・地球化学分野において、観察結果を基にした推察・考察をする問題の正答率は良いです。判断の基準となる特徴やポイントをしっかりと理解し、これを基準に状況判断をすることができています。

★エネルギー領域で身近な現象や分析のためのグラフ作成技能などの部分を苦手としている傾向があります。目に見えない事象をイメージし、モデル図等で考える取組を強化する必要があります。

4 質問紙調査結果<本校の回答率>

☆→良い状況と考えられる内容

★→指導や改善が必要と考えられる内容

【社会の一員として自覚を持ち、正義を重んじ、命の大切さを実感できる人】

☆「ICTを活用した学習状況」については、大型提示装置等のICT機器を活用した授業の頻度は、「ほぼ毎回」と回答した中学生の割合は昨年度から約10ポイント増加しています。また、「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では、肯定的回答した中学生の割合が90%を超えており、日々の学習の中でICT機器は定着しつつあり、有効に活用することができています。

☆★「自分には、よいところがあると思いますか」については、全国平均を上回っていますが、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」については、全国平均を下回っています。自己有用感を高めることに加え、多くの生徒に物事に挑戦できる環境をつくりつつ、そのフォローを充実させることが必要だと考えます。

5 今後の取組

(1) 教科について

国語 グループでの言語活動を継続していくとともに、生徒自身の記述を互いに共有し、読み手からの助言に基づいて記述の良い点、改善点を見出す活動を増やすことで、「書くこと」への充実感の向上に努めます。

数学 より身近で具体的な事象と結び付けられた問題提起を充実させ、生徒自身で数学的概念を獲得できる授業改善に努めます。

理科 グラフの作成技能の向上、見えない事象の可視化・モデル化、観察実験実習などの具体的な作業の充実を図ることで、身近な自然現象に興味をもち、探求しようとする姿勢の育成に努めます。

(2) 生徒質問紙について

情報収集や発表活動についての意識が高く、授業や行事の中で、ICT機器の活用頻度は増えています。活用の頻度は増えていますが、あくまで学習用具の1つとしての意識を忘れずに、それぞれの授業や行事でどのような手立てが教育的な効果が高いかも考える必要があります。また、普段の学校生活や行事等を通して、生徒それぞれが集団の中で達成感や充実感を感じられる場をできるだけ多くしていくことが大切だと考えます。例えば、互いに感謝する場面を作り出し「人の役に立つということは気持ちのよいこと・うれしいこと・楽しいことである」と実感させることも大切だと考えています。コロナ渦の状況だからこそ、今、何ができるか考える力を育成し、それをと、人とのつながりを大切にできるよう取り組んでまいります。

教育委員会から：犬蔵中学校では、今年度特に、「わかる授業」の推進として「ICTの利活用」を研究してきました。日頃より先生方が導入できる場面を考え、より良い授業をしようと研鑽を積みながら生徒に還元をしており、その成果が生徒の回答からもあらわれています。一人一人の自己肯定感も育っており、お互いを認め合い学校生活を充実させ、様々な場面で活躍できる人材の育成が進んでいくものと捉えております。 宮前区・教育担当